

特別
企画

来年の4月から 敬老パスが変わります

敬老優待乗車証(敬老パス)制度はどうあるべきかについて、昨年の夏以降、多くの市民からご意見をいただきながら検討・議論してきました。市の財政状況が厳しさを増す中、将来的にもこの制度を存続させていくために、市議会でも議論を重ね、最終的には利用可能金額の上限を5万円、利用者の負担額の上限を1万円とする制度とすることに決定しました。私といたしましては、多くの議論を重ねたことで、高齢者を敬う気持ちを大切にしつつ、厳しい財政状況にも対応した制度となり、また、多くの市民意見が反映した内容になったものと考えております。

共に支え合う社会を築いていくために、新しい敬老パス制度にご理解とご協力をお願いいたします。健康で生き生きとした生活に、新しい敬老パスが有効に活用されることを心から願っております。



札幌市長 上田文雄

詳細 敬老優待乗車証に関するお問い合わせは高齢福祉課 ☎211-2976へ

平成17年度からの利用方法については、市コールセンター☎222-4894でもお答えしています。
(午前8時～午後9時、土・日曜、祝・休日を含む)

これまでの市民議論

(意見募集や説明会の開催状況など)

- 本誌特集記事で現状などを紹介し、市民意見を募集(平成15年11月号)
- 市民5,000人アンケートを実施(平成15年11月～12月)
- 本誌(平成16年1月号)に市民から寄せられた意見を掲載
- 本誌(平成16年2月号)に市民5,000人アンケート結果を掲載
- 老人クラブ説明会を全区で実施(平成16年1月28日～2月9日)
- 市民討論会「みんなで考えよう、敬老パス」を開催(平成16年2月13日)



- 出前講座の実施17回(平成15年11月26日～平成16年11月19日)
- コールセンターでの意見の受け付け
- 市長が各区に出向き市民と意見交換するタウントークでも説明



こうして、さまざまな方法で市民の意見をいただきながら、敬老優待乗車証(敬老パス)の在り方を検討してきました。そして、市議会による議論を経て、来年度からは左ページのように新しい制度になることが決まりました。

見直しの背景

今年度の事業費は37億円

高齢化の進行に伴い、事業費が増え続けています。制度がスタートした当初の事業費は1億2,800万円でしたが、今ではその29倍の37億4,500万円にもなっています。

毎年2億円ずつ増加

対象者が毎年1万人ずつ増加し続けています。今のまま制度を存続するのであれば、事業費は今後毎年2億円ずつ増加します。

一層厳しくなる財政状況

借金の返済(公債費)や生活保護費などの義務的な経費が増える一方で、市税の大幅な伸びが見込めないため、本市の財政状況は極めて厳しくなっています。平成17年度から20年度までに毎年200～500億円の収支不足が発生する見込みです。